

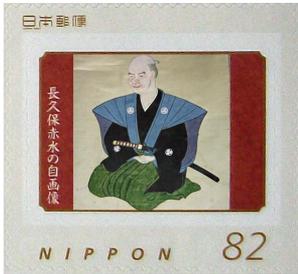
改正日本輿地路程全図 (赤水図)

一改訂の経緯を中心に一

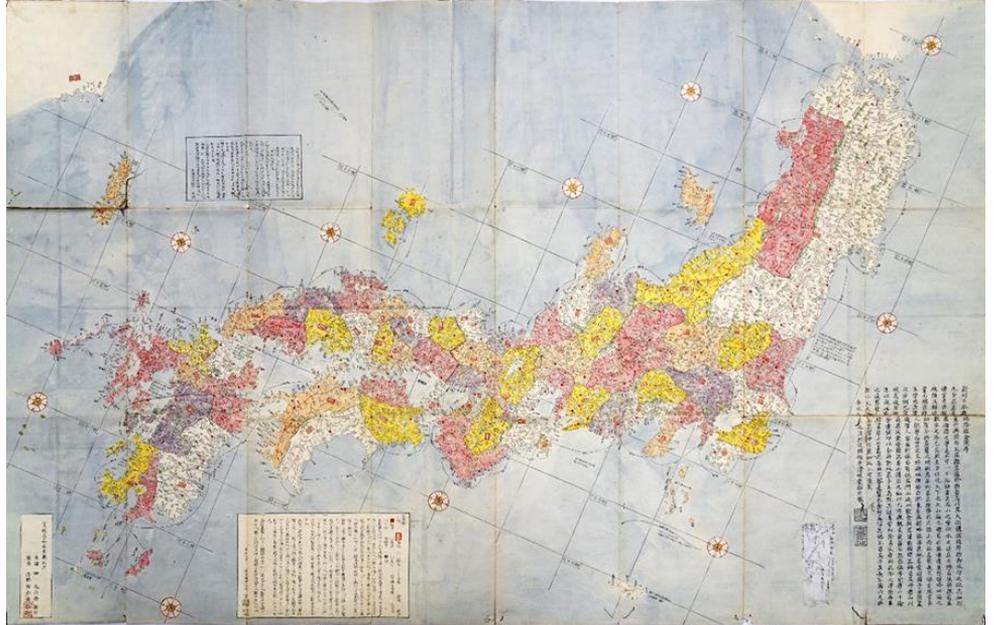
海田 俊一

Imago Mundi's National Representative for Japan
[Image of the world] The International Journal for the History of Cartography
A Member of International Map Collectors' Society
国際古地図研究会

1



長久保赤水
1717-1801



改正日本輿地路程全図 (赤水図), 第2版, 寛政3(1791) 初訂state 神戸市立博物館・南波コレクション

2

日本図の主要な系譜

公儀

江戸幕府撰の編集図

慶長c1600・正保c1645・元禄1690s・天保c1840 手稿

江戸幕府の実測図

伊能図 大日本沿海輿地全図 文政4(1821)完成 手稿



官板実測日本地図 慶応3(1867) 刊本

民間

想像的絵図

流宣図 本朝図鑑綱目1687～ 刊本
日本海山潮陸図1689～1778・・・

編集図

赤水図 1779/80～ 刊本



3



流宣図 日本海山潮陸図
初版2訂 元禄4(1690) 私蔵

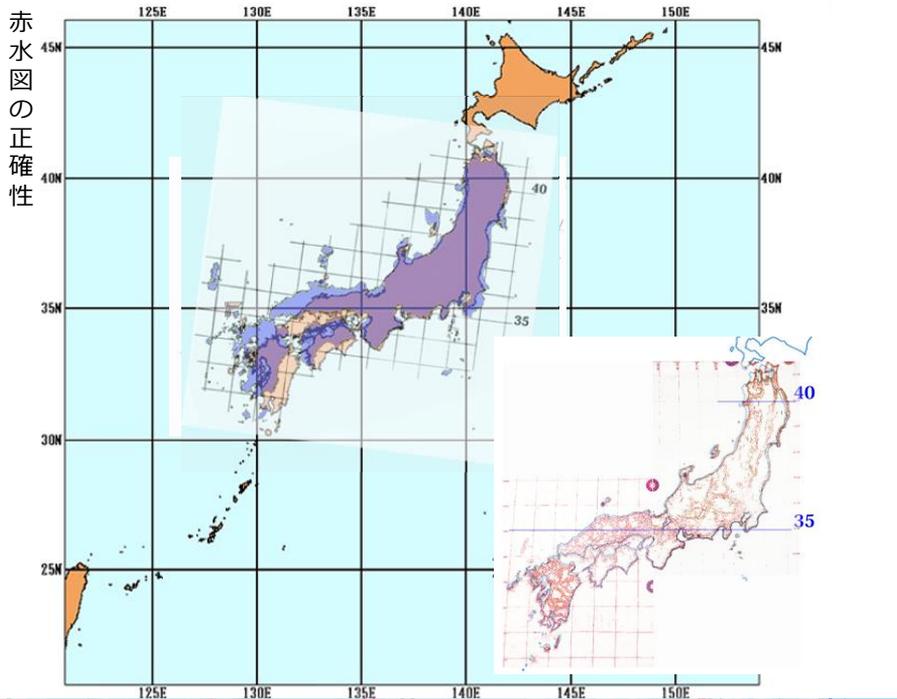
赤水図 改正日本輿地路程全図
初版初訂 安永8(1779) 神戸市立博物館



4

特徴	流宣 大型図	赤水図
大きさ	畳物	同高 幅は2割小さい
日本の形状	デフォルメ 東日本が短縮	正確
地名数	潮陸図元禄4年版900	安永 ² 訂4200 ⁹ 訂4600, 寛政版5952*
先行図との差別化	陸路の宿場を強化 名所等絵図の装飾的な図示	都市や川筋の正確な配置 郡単位の詳細化(寛政版)
武鑑的要素	藩主名・石高あり(頻繁に改訂)	なし
里程	周囲の表 主要街道は図中に数値で記載	図形の縮尺で表示 一寸10里(1:130万)
刊行時期	元禄3(1690)~安永7以降	安永8(1779)~天保11(1841)
改版・改訂回数	改版なし・改訂42回以上	改版5回、改訂は安永版13回以上・ 寛政版4回以上・文化版2回・ 天保4年版1回・天保11年版2回
まとめ	芸術的・実用的な空想絵図	科学的かつ実用的な地図

5



国土地理院の日本付近図
これにメルカトル図を重ねる

メルカトル(正角円筒)図法から
北緯35-40°の幅を基準として等間隔とし
正距円筒図法の方格図に近づける

赤水図寛政版 経線が垂直に
なるように反時計回りに回転。

上記で表現された実測図からの
近似図(橙)と寛政版(青紫)の比較
(35-40度線を合わせ京都付近を重ねる)。

西日本は比較的良好に合致するが、
四国南端の足摺崎は南に突出(安永版より
改題)、島々はより大きく遠方に描画。

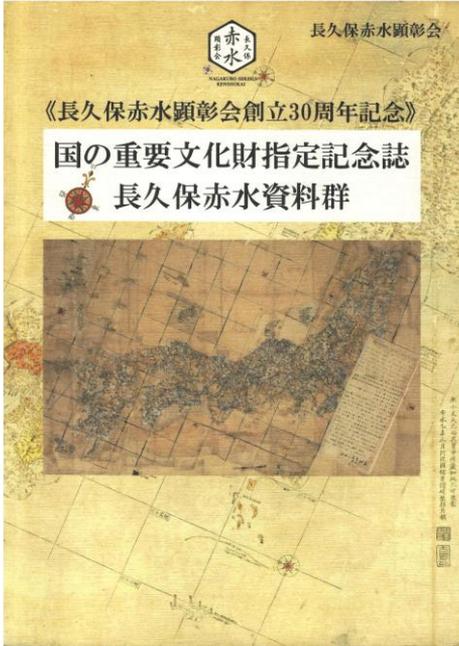
赤水図を丹後半島の先を中心に
時計回りに7度回転

さらに、やや北にずらす。
東日本は改善、各半島部のずれは残
り、佐渡は70度ほど反時計回り。

赤線は伊能小図を赤線で示す。
それに合わせ、緯度による水平
方向の距離を補正し京都を通る
経線を垂直とした実測図を青で
重ねる。

6

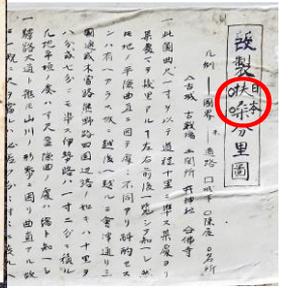
赤水図の先行図について



改製日本分里図
 明和5(1768) 手稿
 通称、赤水図の「原図」
 高萩市立歴史民俗博物館

寛政版にかけての多数の手直しの後が残される隠岐の角度は安永版類似 対馬の形は寛政版類似

本州北端では下北半島は安永Ⅶ訂までの鷹口型、この場所の恐山はⅧ～Ⅺ訂、大間崎はⅪ訂から北に移動し夏泊になる 屋島が島であるのはⅣ訂まで



7



日本分野図
 森 幸安
 宝暦4(1754)
 国立公文書館

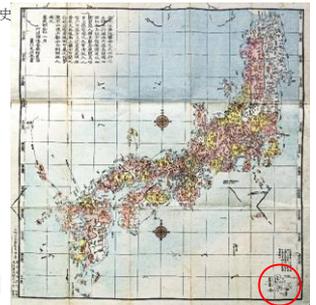


橘守国図
 長久保 赤水
 高萩市立歴史民俗博物館



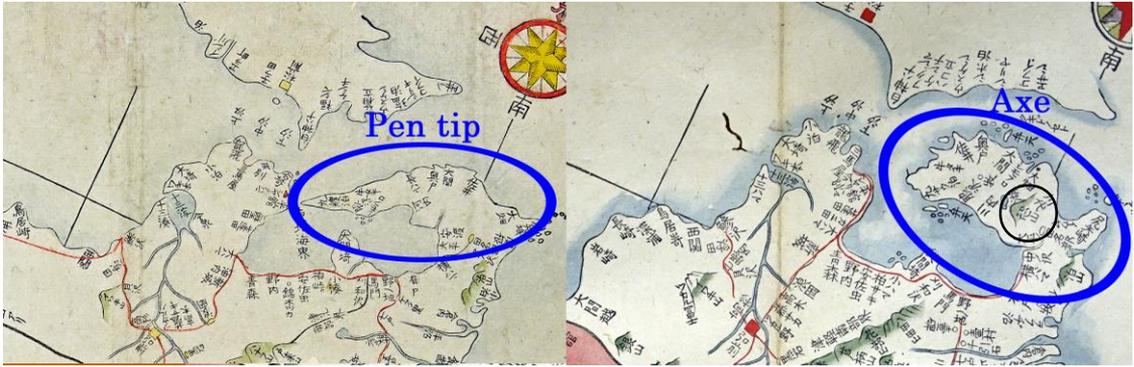
日本略図
 長久保 赤水
 高萩市立歴史

重鐫日本輿地全図
 長久保 赤水
 天明3(1783) もう一つの赤水日本図



8

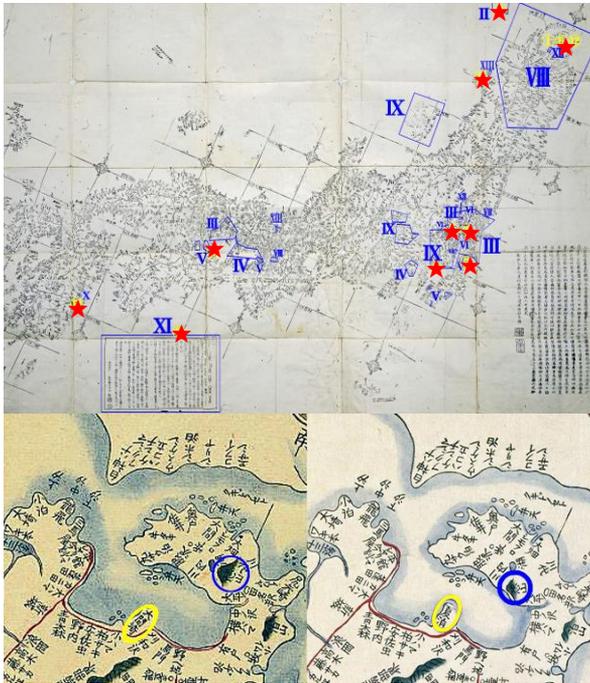
安永初版の改訂について (訂=ステート)



I ~ VII ステート
鷺口(とびくち)形 Pen tip

VIII ~ XIII ステート
斧形 Axe

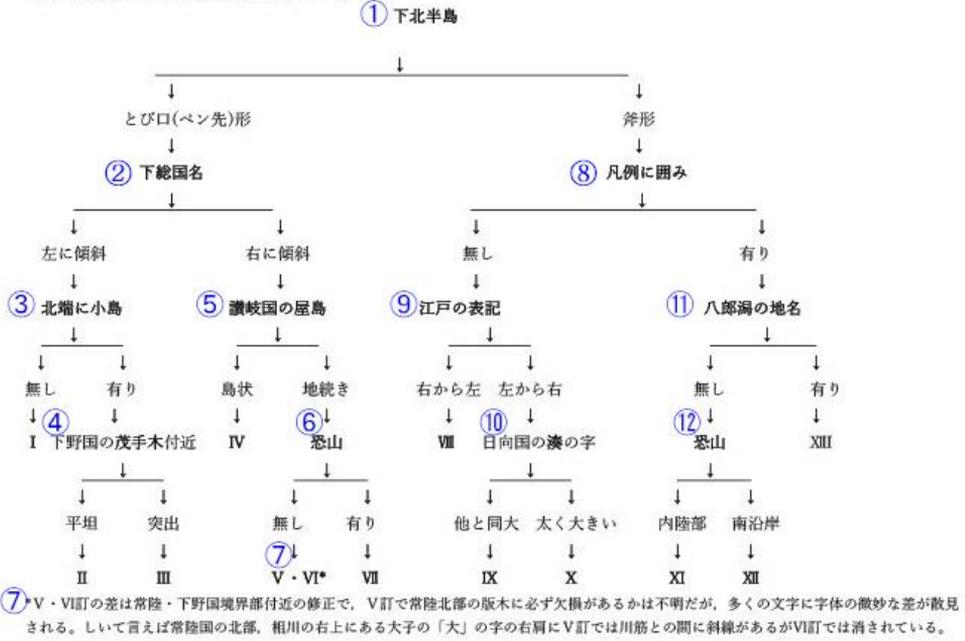
9



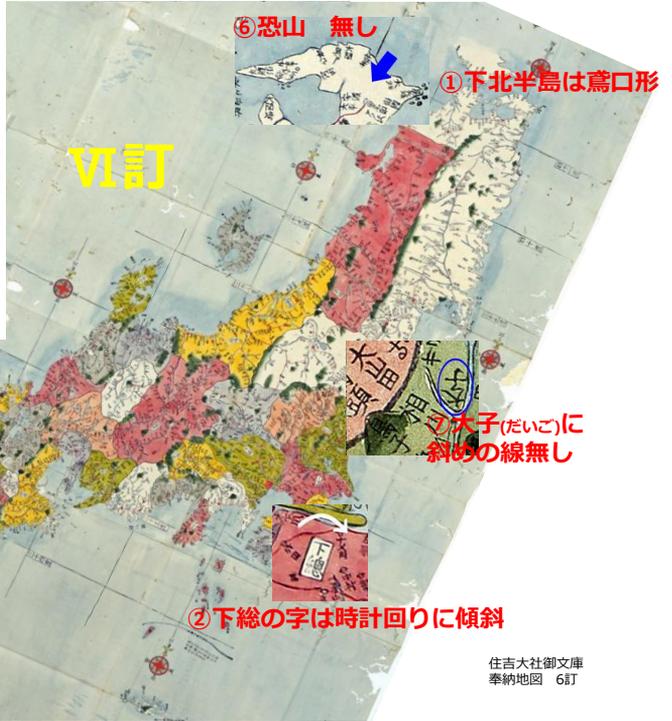
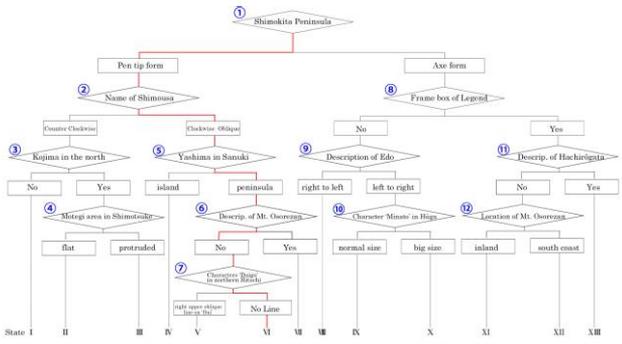
No.	earlier state	↔	later state	No.	earlier state	↔	later state
①				⑦			
②				⑧			
③				⑩			
④				⑩			
⑤				⑪			
⑥				⑫			

10

赤水図安永初版の改訂識別のためのフローチャート



11



住吉大社御文庫
奉納地図 6訂

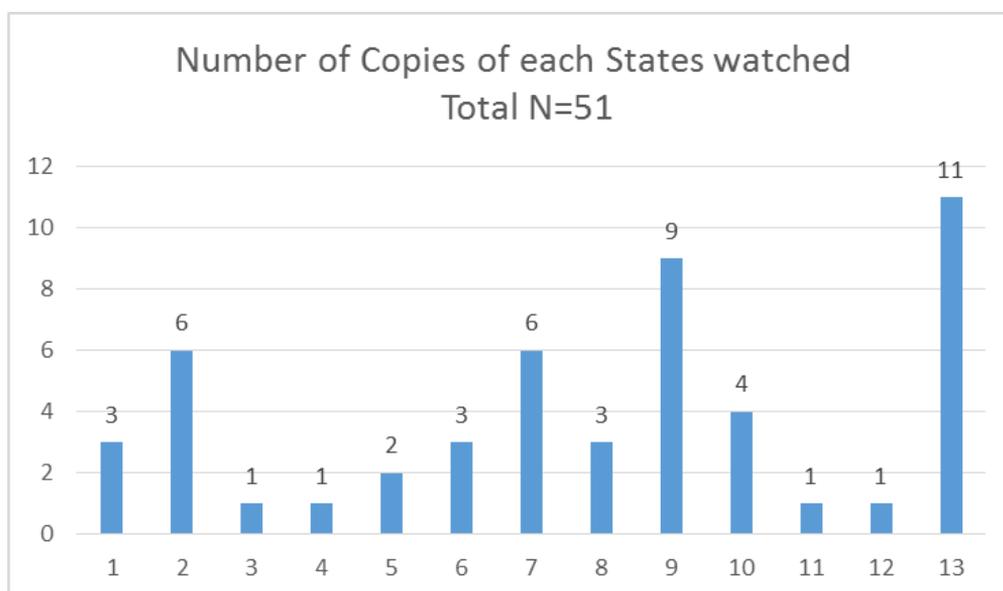
12

赤水図の安永初版における各訂の国内外の収蔵先一覧

States	No.	Collection	Item No.in theCollection	States	No.	Collection	Item No.in theCollection
I	①	Kobe City Museum	Namba79*	IX	①	National Museum of Japanese History	Akioka H-110-8-68*
	②	Meiji Univ. Library	Asida 9-72-1*		②	National Museum of Japanese History	Uchida H-1736-8-37*
	③	Takahagi City Museum of History & Folklore	345 *		③	Toyama Pref. Library	291.03*
II	①	Leyden Univ. Library	Serrurier.220a* (von Siebold Coll.)		④	Library of Congress, USA	G7961.P2 1779. N3*
	②	Author's	*		⑤	Author's	*
	③	Tohoku Univ. Library	Kano 3-8342-1		⑥	Author's	*
	④	Kushu Univ. Library	Matsuki 636		⑦	Ryukoku Univ. Library	Tokushi 024.3/1399-W
	⑤	on market in 1996			⑧	Meiji Univ. Library	Ashida 9-72-5
	⑥	Bibliothèque nationale de France	FRBNF40745945*		⑨	Bibliothèque nationale de France	FRBNF40694491*
III	①	Kobe City Museum	Namba82*	X	①	Kobe City Museum	Namba81*
IV	①	Univ. of British Columbia Library	g7961 p2 1779 N3; Beans 1779.1*		②	Takahagi City Museum	163*
V	①	Ryukoku Univ. Library	Shajidai 491.09/1-W		③	Meiji Univ. Library	Ashida 9-72-2
	②	Nagoya Univ. Library	Jinko 291.038 N*		④	Library of Informatics and Languages, Nagoya Univ.	210.02 N
VI	①	Okayama Univ. Library	Ikedake T10-11*	XI	①	Waseda Univ. Library	ル11_01137* (defect, restored)
	②	Sumiyoshi Taisha Shrine	Z11-25*	XII	①	Univ. of British Columbia Library	G7961 P2 1779b N3; Beans Add. 1779. 1 *
	③	Author's	*		①	Kobe City Museum	Akioka15*
VII	①	National Astronomical Observatory of Japan	2776*		②	Kobe City Museum	Akioka16*
	②	Takahagi City Museum	339*		③	Tsu City Library	Inagaki 29MN-82*
	③	National Museum of Japanese History	Uchida H-1736-10-38*		④	Yokohama Univ. Library	Ayuzawa WC-1/45*
	④	Kobe City Museum	Namba83*		⑤	Author's	*
	⑤	Kobe City Museum	Akioka17*		⑥	Author's	*
	⑥	Kyoto Univ. Library	05-84/Zenzu/1/8・14634*		⑦	National Diet Library in Tokyo	YR8-113
Shape of Shimokita Pen. changed from Axe to Hook/Pentip					⑧	Meiji Univ. Library	Ashida 9-72-4
VIII	①	Meiji Univ. Library	Asida 9-72-3*		⑨	Hiroshima Prefectural Museum of Japanese History	Moriya 263
	②	Kobe City Museum	Namba80*		⑩	Kobe Univ. Library	Sumida 5C-89
	③	Takahagi City Museum	338*		⑪	on market in 2018	

13

赤水図の安永初版における各訂の度数頻度



14

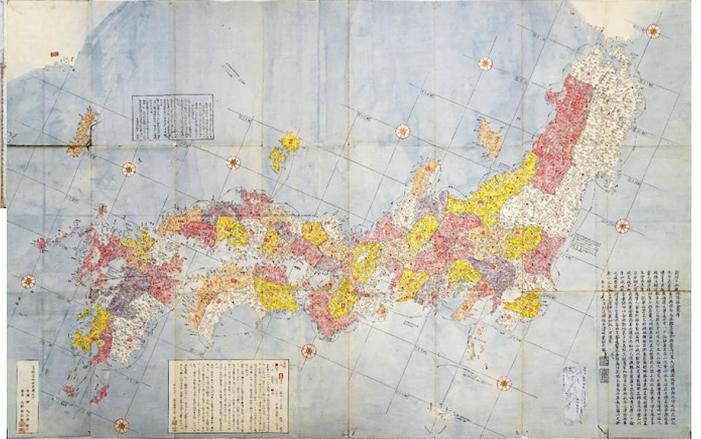
寛政2版について



安永初版9訂(1779) 私蔵

寛政2版 初訂(1791) 神戸市立博物館

- ・佐渡・老岐・対馬，四国南端の輪郭の変更
- ・コンパスローズの削減(12→10)
- ・海路とその路程
- ・不知火に関する記述
- ・潮汐についての考証の追加
- ・凡例の充実化
- ・色数と配色
- ・小判型の郡名，破線の郡境を追加；地名の増補



15

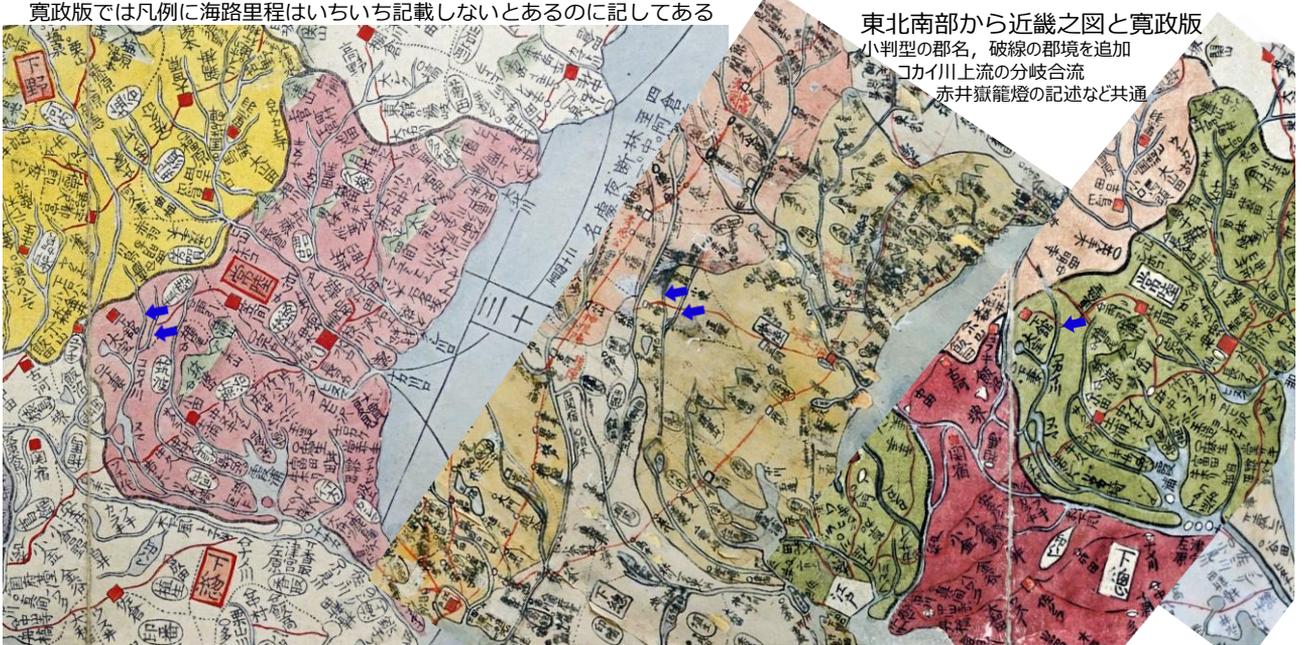
寛政2版 初訂

寛政版では凡例に海路里程はいちいち記載しないとあるのに記してある

東东南部から近畿之図

安永初版 10訂 安永初版 2訂

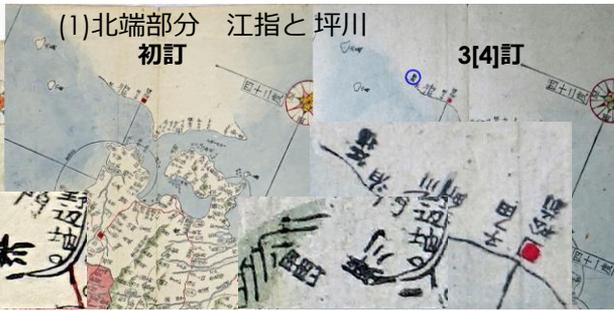
東东南部から近畿之図と寛政版
小判型の郡名，破線の郡境を追加
コカイ川上流の分岐合流
赤井嶽籠燈の記述など共通



16

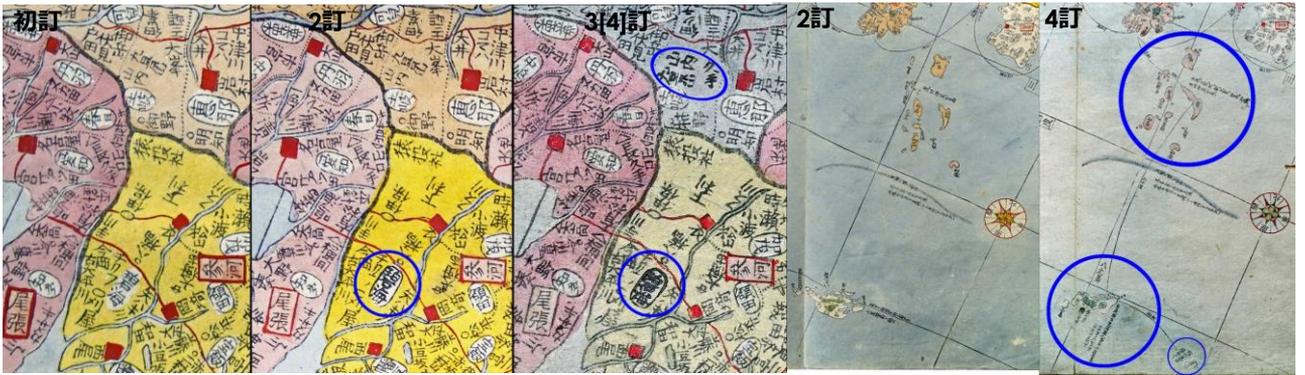
寛政2版の改訂

初訂 高秋市立歴史民俗博物館



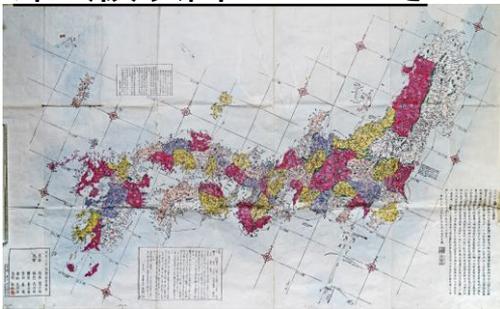
(2)三河の碧海と美濃南部

(3)伊豆諸島

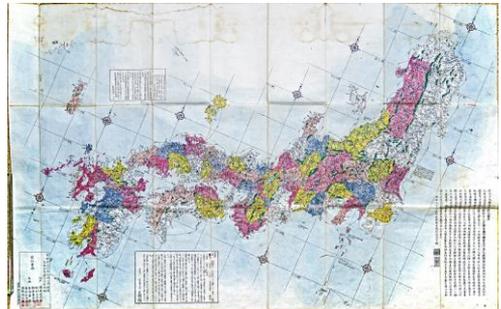


17

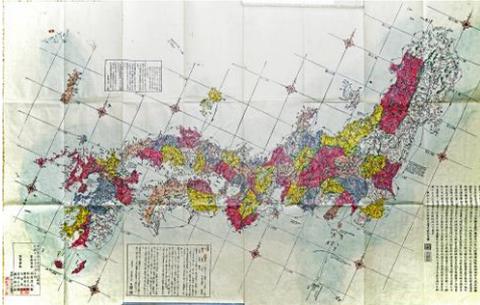
第3版以降について



文化3版 文化8(1811) 2軒版(手彩色)と6軒版(色刷)あり



天保4版 天保11(1834)



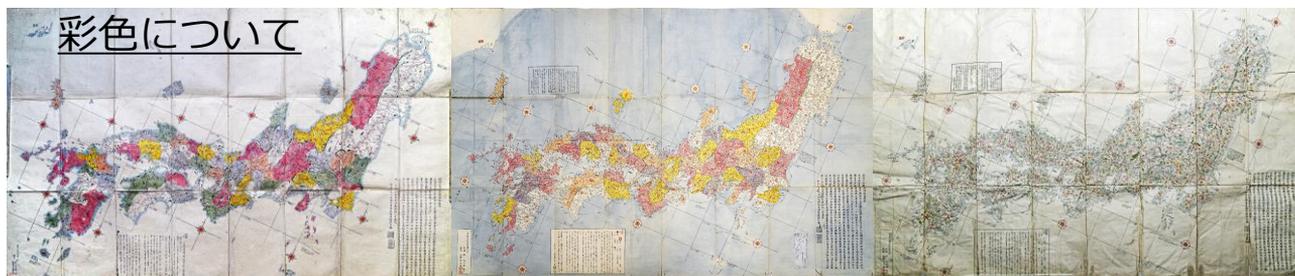
天保5版 天保11(1841) 東西6軒版と浪華6軒版あり



2~5版における版元の刊記の推移

2:浅野> 3a:須原屋> 3b・4:+松村・柳原・吉田・赤松> 5a:浅野が抜けて橋本加入

18



安永初版(9訂) 1779
極彩色

分国には7色
赤・淡橙・黄・灰紫・白
淡緑(黄緑)・鼠色

青・・・沿岸部
濃緑・・・山脈
赤・・・街道

寛政2版(初訂) 1791 神戸市立博物館
極彩色

分国には5色
赤・淡橙・黄・灰紫・白

青・・・沿岸部/海
濃緑・・・山脈
赤・・・街道
淡橙・・・国名枠内

寛政2版(初訂) 1791
減色版

青・・・沿岸部と湖
濃緑・・・山脈
赤・・・街道
黄・・・国名枠内

19

まとめ

- ・ 赤水図の安永初版は12回以上の改訂があった (13ステート)。改訂された地域は主に関東、北端部、阪神近郊。
- ⇨ 流宣大型日本図(日本海山潮陸図系統)は40回以上刊行されているが地図の改訂は1回だけ。
- ⇨ 赤水図の寛政2版は3回ほどの改訂に留まる (4ステート)。3版以降は没後刷り。
- ⇨ 赤水の大型世界図や中国図はほとんど改訂されていない。
- ・・・ 赤水図の完成型は寛政2版、完璧さを追求した赤水の情熱と努力の結晶である
- ・ 配色 (Color-coding pattern) は初版と寛政2版以降とでは異なる。安永初版・寛政2版は手彩色，文化3版後半から色刷となる。
- ・ 江戸後期の80年にわたり，実用的で正確な赤水図は流宣図に替わる日本地図の決定版として大衆に受容された。

20

【補足】

・国の色分けの配色については、安永版については「安永定番」の配色が使用されるようになったのはIII訂から、寛政版の彩色は初めから定まっていたと見受けられます。手彩色では時々塗違いもありますが、色刷りになると当然ながら間違いはなくなります。

・改訂毎の地名の数は再調査が必要と考えています。私が先日初訂の地名数を数えると2訂の4200を上回ってしまいました。地名と思いながら地名でないもの、地名が2行にまたがっているものなどがあるかもしれないので、前後の訂と比較をしながらカウントする必要があるかもしれません。

・当日は地名の配置の向きについてご質問がありましたが、その場でフロアの方が指摘されていたように、海岸部の地名は内陸側から見た方向で書かれていることが多いようです。ただ、岩手県の東岸北部など向きが逆転している部分もあり、規則通りではない箇所もあります。また、海岸部の川や岬の名などは海側から見た方向で海中に書かれています。内陸部の山脈は東北地方では東から見た形で描かれ、地名も同様の向きになっていますが、中には逆向きものもありますし、例えば九州南西部など部分的に南から見た方向で、北東部では北東から見た方向で描かれています。内陸の地名については、主要な街道があるときにはその両側に街道を挟むように道側から書かれています。川の名前は川筋に沿って書かれています。その他については紙面の納まりやすさを考えて記載されているのでしょうか。以上は安永版に基づきます。

・赤水図の販売価格はいくらだったかというご質問もありましたが、茨城県立図書館にある赤水の書簡によれば、寛政3年版の「素摺り(単色)1枚17両、中彩色(4-5色の減色版)1枚21両5分、極彩色(8色)1枚25両」という高値で販売することになったと書かれています。文化14年に伊能忠敬が記載した高橋景保の「新訂万国全図」の値段は1両1分位だったらしいので、これと比較しても桁外れな金額になりますね。江戸の時期にもよりますが、1両に現在の10数万円位の価値があったとすれば、極彩色の赤水図寛政版が300万円くらいで取引されたというのはにわかには信じがたいところですが、おそらくこれは新発売の時期だけで、その後は例えば手彩色から色刷りに替わるころには、かなりこなれて数十分の一くらいの金額になっていたのではないかと推測します。